

過疎地域における“U J I ターン”人口増加の意味するもの Meaning of increase in “UJl turn” population in the depopulated area

○石川敬義*・齋藤信也*・高橋順二**

○ISHIKAWA Keigi, SAITO Shinya and TAKAHASHI Jyunji

1. はじめに

山形県西川町O地区は積雪が300 cmの中山間地にあり、国道112号までクルマで10分程度かり、世帯数が115戸、人口が315人、高齢化率が50.16%で（平成19年4月）、昭和30年代に比べ世帯数で53%、人口で78%減少した過疎集落である。ところが、U J I ターン者が世帯数で15戸、人口で29人あり（平成20年4月）、世帯数は地区の1割を超えている。どんな価値観を持っている人々が、O地区の何に惹かれて住み着き、どのような生き方をしているのか、定量的、定性的に調査した。

2. 調査の方法

15戸のU J I ターン世帯のうち面談を承諾してくれた11世帯を調査対象とした。ヒアリングは①属性②移住する前の生活環境③O地区を選択した理由④移住後の感想⑤今後のO地区について、を聞き、①出身地と移住前事情②O地区の求心力③O地区が得た付加価値、を分析し定性的に評価した。

定量調査はまず、U J I ターン者の価値観の全体傾向をみるため、ライフスタイル選好（環境、恵み、居住）と、居住条件選好（場所、自然、生活質）との2領域について、それぞれ3指標ずつを設け、優先順位をつけ得点化してもらった。次に、U J I ターン者の価値観からみたO地区の地域特性・居住条件の評価を探究した。縦軸にU J I ターン者のライフスタイルの3指標を設け、横軸にO地区の場所、自然、生活質にそれぞれ3指標ずつを設定し、自己の価値観に照らしO地区の地域特性・居住条件をどう評価するかマイナス3からプラス3まで7段階で点数化してもらった。

3. 結果と考察

（1）ライフスタイル選好度と居住条件選好度

ライフスタイル選好ではほぼ全員が「環境」を重要視していた。居住条件選好ではほぼ全員が「自然」を求め住み着いた人であることを示した。O地区は環境と自然を重視する人々に選ばれやすいところとなる。

ライフスタイル選好順位 (1位3点、2位2点、3位1点)				居住条件選好順位 (1位3点、2位2点、3位1点)			
	環境	恵み	居住		場所	自然	生活質
No1. S・S氏	3	2	1	No1. S・S氏	2	3	1
No2. Y・K氏	3	2	1	No2. Y・K氏	2	3	1
No3. M・K氏	3	1	2	No3. M・K氏	2	1	3
No4. T・H氏	3	2	1	No4. T・H氏	2	3	1
No5. Y・H氏	3	1	2	No5. Y・H氏	2	3	1
No6. T・S氏	3	2	1	No6. T・S氏	1	3	2
No7. Y・K氏	3	1	2	No7. Y・K氏	1	3	2
No8. K・T氏	3	1	2	No8. K・T氏	1	3	2
No9. S・M氏	3	1	2	No9. S・M氏	2	3	1
No10. K・K氏	2	3	1	No10. K・K氏	1	3	2
No11. T・S氏	1	2	3	No11. T・S氏	3	2	1
	30	18	18		19	30	17

（2）O地区の場所・自然・生活質に関する評価

「場所」に関しては「環境」の観点でみた「水・生物」「非都市」「地理・気象」への評価が高く、同時に「恵み」の観点でも「水・生物」「地理・気象」への評価が高かった。豊かな自然環境が精神的恵みももたらしている。「自然」に関しては、「環境」の観点からみた「生物相」「生態系」及び「恵み」の観点からみた「生態系」をマイナス評価した人はおらず全員がプラス評価であった。多様な生物相にみられる豊かな自然が地区の最大の特性で、多い雪の障害を補って余りある価値をもたらしている。これが「生活質」になると一変し、マイナス得点が続出した。特に「利便性」に絡む指標は3つの価値観のどの観点からみてもマイナス評価になっている。「所得」指標も2つの価値観からみてマイナス得点になった。商店や学校や常設医療機関が無く、ぎりぎりの収入の生活であることが分かっており頷ける。一方、面談で地区内の役割や行事が多すぎるとのコメントがあったにもかかわらず、「社会」指標はマイナス得点になっていない。頼りにされる存在になっていることが満足感につながっているのかもしれない。

*（株）荘銀総合研究所 The Shogin Future-Sight Institute Ltd、**（独）農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所 National Institute for Rural Engineering [キーワード：中山間地域 農村振興]

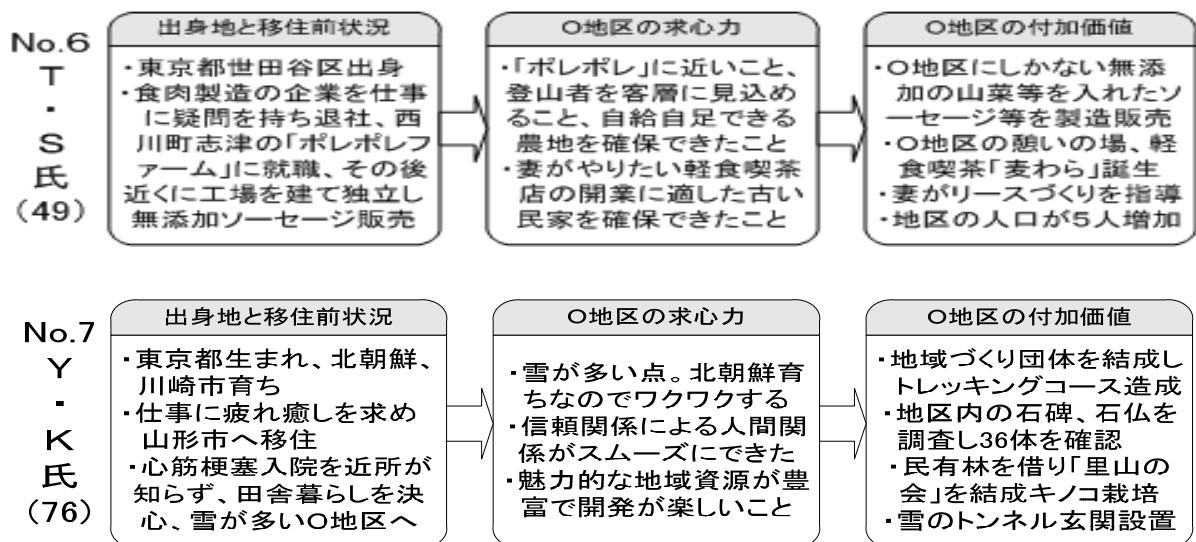
場所評価(A指標群＝最高＋3点～0点～最低－3点)									
	A1 環境×地 理・気象	A2 環境× 水・生物	A3 環境× 非都市	A4 恵み×地 理・気象	A5 恵み× 水・生物	A6 恵み× 非都市	A7 居住×地 理・気象	A8 居住× 水・生物	A9 居住×非 都市
No1. S・S氏	1	1	3	3	1	1	-1	0	1
No2. Y・K氏	2	1	1	3	2	1	0	0	1
No3. M・K氏	3	3	3	3	3	3	-3	3	-3
No4. T・H氏	3	3	3	3	3	3	-1	3	1
No5. Y・H氏	2	3	3	1	1	2	0	-1	3
No6. T・S氏	2	3	3	3	3	3	0	0	2
No7. Y・K氏	3	2	3	0	1	-2	3	2	0
No8. K・T氏	3	3	0	3	3	0	0	3	0
No9. S・M氏	3	2	3	0	0	2	1	1	2
No10. K・K氏	2	3	3	3	3	0	2	3	3
No11. T・S氏	-3	1.5	-3	2	1	-3	0	-3	-2
計11人	21	25.5	22	24	21	10	1	11	8

自然評価(B指標群＝最高＋3点～0点～最低－3点)									
	B1 環境×生 物相	B2 環境× 生態系	B3 環境×生 育条件	B4 恵み×生 物相	B5 恵み× 生態系	B6 恵み×生 育条件	B7 居住×生 物相	B8 居住× 生態系	B9 居住×生 育条件
No1. S・S氏	2	2	3	1	1	2	1	1	2
No2. Y・K氏	2	1	-1	2	1	1	1	0	0
No3. M・K氏	3	3	3	3	3	3	-3	3	3
No4. T・H氏	3	3	3	3	3	3	2	0	1
No5. Y・H氏	2	2	1	2	1	1	1	1	1
No6. T・S氏	3	3	2	3	2	2	0	0	1
No7. Y・K氏	3	0	0	1	0	2	0	0	0
No8. K・T氏	3	3	3	3	3	3	3	3	3
No9. S・M氏	3	3	3	1	0	0	-1	-1	0
No10. K・K氏	3	3	3	3	3	2	3	3	3
No11. T・S氏	2	3	-3	-3	1	-2	0	0	-3
計11人	29	26	17	19	18	17	7	10	11

生活質評価(C指標群＝最高＋3点～0点～最低－3点)									
	C1 環境× 所得	C2 環境× 利便性	C3 環境× 社会	C4 恵み× 所得	C5 恵み× 利便性	C6 恵み× 社会	C7 居住× 所得	C8 居住× 利便性	C9 居住× 社会
No1. S・S氏	1	-2	-1	1	-2	1	-2	0	0
No2. Y・K氏	1	-1	-1	1	-1	1	0	-1	0
No3. M・K氏	-3	-3	0	-3	-3	2	0	-3	3
No4. T・H氏	-3	-2	-3	-3	-2	-3	-1	-2	-3
No5. Y・H氏	0	-2	-1	0	-2	1	0	-2	0
No6. T・S氏	1	-1	0	0	0	0	0	0	0
No7. Y・K氏	-2	-2	2	1	-3	3	3	-2	1
No8. K・T氏	3	0	3	3	0	3	3	0	3
No9. S・M氏	-1	-1	2	-1	-1	2	-1	-1	2
No10. K・K氏	0	0	3	3	2	3	3	2	3
No11. T・S氏	-3	-3	0	-3	-3	0	-3	-2	0
計11人	-6	-17	10	-1	-15	13	2	-11	9

(3) 定性調査

仕事上の疑問や都市生活のストレスから逃れ新たな人生を求めて移住した人が多い。移住先の選択肢としてはO地区の自然環境の魅力が最大の要因になっている。O地区の地域資源の開発、コミュニティー維持に絶大な力を発揮し地域の付加価値を高めており、地域を新たなステージへ導いている。



4. おわりに

平成10年に閣議決定された「21世紀の国土のグランドデザイン」は東北地方の整備方向を「調和のとれた新しいライフスタイルが展開されるフロンティア」と位置づけている。UJIターン者はその体現者であろう。O地区はこれらの人々と共に自然環境教育ビジネスの舞台になるべきではないか。